

未来のものづくりを支える産業人材育成事業に係る 企画提案公募要領

大阪府では、子どもたちにもものづくりへの興味・関心をもってもらい、将来のなりたい職業につながるきっかけを創出することを目的に「未来のものづくりを支える産業人材育成事業」を実施します。

本事業については、民間事業者等の知識やノウハウ等を活用し、より効果的・効率的に実施するため、企画提案公募により受託事業者を募集します。

1 委託事業名

未来のものづくりを支える産業人材育成事業

(1) 本事業の趣旨・目的

全国的に人手不足が深刻化する中、大阪が今後も持続的に成長し、世界と伍する都市として発展していくためには、大阪・関西万博のレガシーを継承したうえで、経済力・都市力・人材力を一体的に高めていくことが必要である。とりわけ、経済力や都市力を支える土台となる「人材力」の強化は極めて重要であり、成長産業分野や観光分野、さらにそれらを下支えするものづくり産業の担い手となる人材の安定的な確保・育成が大きな課題となっている。

万博期間中には、大阪ヘルスケアパビリオン内の「リポーンチャレンジ」において府内中小企業等の新技術やプロダクトが紹介されたほか、「未来の食」を体験できる施設において創造性あふれる様々なメニュー・商品が提供されるなど、大阪が誇るものづくりの技術力が世界に発信された。これらの技術・製品・商品の開発・製作の背景には、工業系・調理系をはじめとする高度な技能と豊かな創造力を備えた多様な職種の技能者の存在があり、ものづくり産業人材の育成は、成長分野の各取組を下支えする重要な基盤である。

一方で、産業構造や進路選択の多様化が進む中、特に小中学校段階においては、実社会で活躍する技能者やものづくりの現場に触れ、ものづくりの仕事のやりがいや技術の奥深さについて学ぶ機会が十分とはいえない状況にある。このため、子どもたちがものづくりの仕事を身近な職業として捉え、将来の職業選択や進路について具体的に考えるためには、実社会で働く人の話や取組に触れるなど、仕事の意義や魅力を知る学びの機会を充実させていくことが重要である。

そこで本事業では、子どもたちがものづくりへの興味・関心を高め、「将来のなりたい職業」へとつながるきっかけを創出することを目的に、ものづくり企業・団体と連携し、なにわの名工等の技能者による出前授業等を府内小中学校で実施する。併せて、本取組に参画する技能者を対象とした研修や交流会を実施し、出前授業が地域社会への貢献や将来のものづくり人材の育成につながる重要な取組であることへの理解を深めるとともに、継続的な出前授業の担い手となる企業・技能者の育成を図る。さらに、企業・団体間の連携・協働を促進することで、出前授業の内容や手法の質向上を図り、継続的かつ安定的な実施体制の構築につなげ、将来にわたり大阪のものづくり産業を支える人材育成の好循環を創出することをめざす。

(2) 事業概要

別添仕様書のとおり

(3) 委託上限額

8,820,000 円（消費税及び地方消費税相当額含む）

(4) 履行期間

契約締結日から令和 9 年 3 月 26 日まで

2 スケジュール

令和 8 年 4 月 1 日（水曜日）	公募開始
令和 8 年 4 月 10 日（金曜日）	説明会開催
令和 8 年 4 月 17 日（金曜日）	質問受付締切
令和 8 年 5 月 1 日（金曜日）	提案書類提出締切
令和 8 年 5 月 15 日（金曜日）	選定委員会（プレゼンテーション審査）
令和 8 年 6 月 1 日（月曜日）	契約締結・事業開始
令和 9 年 3 月 26 日（金曜日）	事業終了

3 公募参加資格

次に掲げる要件をすべて満たす者又は複数の者による共同企業体（以下「共同企業体」という。）であること。

なお、共同企業体で参加する者にあつては、構成員全員が該当すること。

(1) 次のアからクまでのいずれにも該当しない者であること。

ア 成年被後見人

イ 民法の一部を改正する法律（平成 11 年法律第 149 号）附則第 3 条第 3 項の規定によりなお従前の例によることとされる同法による改正前の民法（明治 29 年法律第 89 号）第 11 条に規定する準禁治産者

ウ 被保佐人であつて契約締結のために必要な同意を得ていないもの

エ 民法第 17 条第 1 項の規定による契約締結に関する同意権付与の審判を受けた被補助人であつて、契約締結のために必要な同意を得ていないもの

オ 営業の許可を受けていない未成年者であつて、契約締結のために必要な同意を得ていないもの

カ 破産手続開始の決定を受けて復権を得ない者

キ 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号）第 32 条第 1 項各号に掲げる者

ク 地方自治法施行令第 167 条の 4 第 2 項各号のいずれかに該当すると認められる者（同項各号のいずれかに該当すると認められることにより、大阪府入札参加停止要綱に基づく入札参加停止の措置を受け、その措置期間を経過した者を除く。）又はその者を代理人、支配人その他の使用人若しくは入札代理人として使用する者

- (2) 民事再生法（平成11年法律第225号）第21条第1項又は第2項の規定による再生手続開始の申立てをしている者又は申立てをなされている者（同法第33条第1項の再生手続開始の決定を受け、かつ、大阪府入札参加資格審査要綱に基づく物品・委託役務関係競争入札参加資格の再認定がなされた者を除く。）、会社更生法（平成14年法律第154号）第17条第1項又は第2項の規定による更生手続開始の申立てをしている者又は申立てをなされている者（同法第41条第1項の更生手続開始の決定を受け、かつ、同要綱に基づく物品・委託役務関係競争入札参加資格の再認定がなされた者を除く。）、金融機関から取引の停止を受けている者その他の経営状態が著しく不健全であると認められる者でないこと。
- (3) 府の区域内に事業所を有する者にあつては、府税に係る徴収金を完納していること。
- (4) 府の区域内に事業所を有しない者にあつては、主たる事務所の所在地の都道府県における最近1事業年度の都道府県税に係る徴収金を完納していること。
- (5) 消費税及び地方消費税を完納していること。
- (6) 大阪府入札参加停止要綱に基づく入札参加停止措置を受けている者又は同要綱別表各号に掲げる措置要件に該当する者でないこと。
- (7) 次のアからウのいずれにも該当しない者であること。
 - ア 大阪府暴力団排除条例に基づく公共工事等からの暴力団の排除に係る措置に関する規則（令和2年大阪府規則第61号。以下「暴力団排除措置規則」という。）第3条第1項に規定する入札参加除外者（以下「入札参加除外者」という。）
 - イ 暴力団排除措置規則第9条第1項に規定する誓約書違反者（以下「誓約書違反者」という。）
 - ウ 暴力団排除措置規則第3条第1項各号のいずれかに該当すると認められる者
- (8) 府を当事者の一方とする契約（府以外の者のする工事の完成若しくは作業その他の役務の給付又は物件の納入に対し府が対価の支払をすべきものに限る。以下同じ。）に関し、入札談合等（入札談合等関与行為の排除及び防止並びに職員による入札等の公正を害すべき行為の処罰に関する法律（平成14年法律第101号）第2条第4項に規定する入札談合等をいう。以下同じ。）を行ったことにより損害賠償の請求を受けている者でないこと。
- (9) 共同企業体については、提案上、1つの企業とみなし、応募書類提出後は、代表者及び共同企業体構成員の変更は原則として認めない。
- (10) 宗教活動や政治活動を目的としていないこと。
- (11) 守秘義務を遵守できること。
- (12) 本事業を行うにあたり、大阪府との打合せなどに適切に対応できること。

4 応募の手続き

本事業の提案に参加を希望する者の受付手続等は、以下のとおりです。

「3 公募参加資格」を確認の上、必要な書類を受付期間内に提出してください。

(1) 公募要領の配布及び応募書類の受付

ア 配布期間

令和8年4月1日（火曜日）から令和8年5月1日（金曜日）午後5時まで

イ 配布方法

雇用推進室 人材育成課ホームページ

(https://www.pref.osaka.lg.jp/o110110/01jinzai_r8mirainomonodukuri.html) からダウンロードできます。(直接の受け渡し、郵送による配布は行いません。)

ウ 受付期間

令和8年4月1日(火曜日)から令和8年5月1日(金曜日)午後5時まで

エ 提出方法

書類は郵送(当日消印有効)及び電子メール(jinzaiikusei-g03@sbox.pref.osaka.lg.jp)にて提出をお願いします。電子メール送信後、必ず電話にて当課(06-6210-9529)あて受信の確認をお願いします。(電話は平日午前10時から午後5時まで)

<送付先>

〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16 大阪府咲州庁舎24階
大阪府 商工労働部 雇用推進室 人材育成課 産業人材育成グループあて

オ 費用の負担

応募に要する経費は、すべて応募者の負担とします。

(2) 応募書類

ア 応募申込書(様式1: 正本1部、副本4部)

イ 企画提案書(様式2: 正本1部、副本4部)

ウ 応募金額提案書(様式3: 正本1部、副本4部)

エ 事業実績申告書(様式4: 正本1部、副本4部)

上記(様式4)に加え、別途、過去に実施した類似の事業実績の詳細資料がある場合は提出してください(様式自由: 正本1部、副本4部)。

オ 共同企業体で参加の場合

①共同企業体届出書(様式5: 1部)

②共同企業体協定書(写し)(様式6: 1部)

③委任状(様式7: 1部)

④使用印鑑届(様式8: 1部)

カ 誓約書(参加資格関係)(様式9: 1部)

キ 定款又は寄付行為の写し(1部、3か月以内の日付で原本証明したもの)

ク ①法人登記簿謄本(履歴事項全部証明書)(1部)

・法人の場合に提出してください。

・発行日から3か月以内のもの

②本籍地の市区町村が発行する身分証明書(1部)

・個人の場合に提出してください。

・発行日から3か月以内のもの

・準禁治産者、破産者でないことが分かるもの

③法務局が発行する成年後見登記に係る登記されていないことの証明(1部)

・個人の場合に提出してください。

・発行日から3か月以内のもの

・「成年被後見人、被保佐人、被補助人とする記録がない」ことの証明

- ケ 納税証明書（原本各 1 部、未納がないことの証明：発行日から 3 か月以内のもの）
- ①大阪府の府税事務所が発行する府税（全税目）の納税証明書
大阪府内に事業所がない場合は、本店を管轄する都道府県税事務所が発行するものに代えます。
 - ②税務署が発行する消費税及び地方消費税の納税証明書
- コ 財務諸表の写し（各 1 部：直近 1 か年のもの、半期決算の場合は 2 期分）
- ①貸借対照表
 - ②損益計算書
 - ③株主資本等変動計算書
- サ 最新の営業・事業活動がわかる報告書等（1 部）
会社概要・事業報告書等
- シ 障害者雇用状況報告書の写し（1 部）
- ①公共職業安定所長に障がい者雇用状況の報告義務のある常用雇用労働者の数が 40.0 人以上の事業主の場合
 - ・「障害者の雇用の促進等に関する法律」により事業主（常時雇用労働者数が 40.0 人以上）に義務化されている「障害者雇用状況報告書（様式第 6 号）」の写し
 - ・公示の日の直前の 6 月 1 日現在（6 月 2 日から 7 月 14 日までに公示された場合は、前年の 6 月 1 日現在）の状況について記載したもので主たる事務所の所在地を管轄する公共職業安定所長に提出済で受付印のあるもの
（インターネットによる報告をした場合は、受付印は不要ですが、到達を確認できる書類を併せて提出してください。）
 - ② 常用雇用労働者数が 40.0 人未満の事業主の場合
 - ・「障がい者の雇用状況について」（様式 10 号）
- ス 公正採用人権啓発推進員選任（又は異動）報告書の写し（1 部）
- セ 企業人権協議会への加入申込書の写し（1 部）
- ソ 一般社団法人おおさか人材雇用開発人権センター入会届の写し（1 部）
- タ 「大阪府障がい者サポートカンパニー」又は「大阪府障がい者サポートカンパニー優良企業」登録申請書の写し（1 部）
- ※シ①、ス～タについては、7（2）の審査基準における「府施策への協力」に係る配点を希望する事業者のみ提出してください。
- ※上記ス～タについては、その他選任や加入等が確認できる書類の写しでも可
- (3) 応募書類の返却
応募書類は理由の如何を問わず、返却しませんのでご了解ください。
なお、応募書類は本件に係る事業者選定の審査目的のみに使用し、他の目的には使用しません。
- (4) 応募書類の不備
応募書類に不備があった場合には、審査の対象とならないことがあります。
- (5) その他
ア 応募は 1 者につき 1 提案とします（共同企業体構成員として参加する場合を含む）。

- イ 応募書類の提出に際しては、正本、副本それぞれ1セットずつをA4ファイルに綴って提出してください。また、様式1から様式4及びその関係資料については、正本を電子メールでもお送りください。
- ウ 提出する副本は、提案事業者が特定できる内容、担当者名等の個人情報が記載されている当該箇所を黒塗りしてください。
- エ 応募書類の左側2.5cm程度は、綴じしろとして空白にしてください。
- オ 表紙及び背表紙には提案事業タイトルと提案団体名を記入してください。
＜記入例＞「未来のものづくりを支える産業人材育成事業」提案書
株式会社〇〇（法人名）
- カ 書類提出後の差し替えは認めません（大阪府が補正等を求める場合を除く）。
- キ 提出書類に虚偽の記載をした者は本件への参加資格を失うものとします。

5 説明会

(1) 開催日時

令和8年4月10日（金曜日） 午前11時から正午まで

(2) 開催方法

オンライン会議システム（Microsoft Teams）によるオンライン開催
（申込みいただいた方には別途視聴 URL をご連絡します。）

(3) 申込方法

電子メール（jinzaiikusei-g03@sbox.pref.osaka.lg.jp）にてお申し込みください。

※件名に「説明会申込み:未来のものづくりを支える産業人材育成事業」と明記してください。

※電子メール本文に「事業者名」、「応募者の職・氏名」、「連絡先（電話番号・メールアドレス）」を記入してください。

※口頭、電話による申込みは受け付けません。

※応募にあたって説明会の参加は必須ではありません。

(4) 説明会への申込期限

令和8年4月8日（水曜日） 正午まで

6 質問の受付

(1) 受付期間

公募開始日から令和8年4月17日（金曜日）午後5時まで

(2) 提出方法

「質問票」（様式11）（別様式でも可）にご記入の上、電子メール
（jinzaiikusei-g03@sbox.pref.osaka.lg.jp）で受け付けます。

※件名に「質問：未来のものづくりを支える産業人材育成事業」と明記してください。

※電子メール送信後、必ず電話（06-6210-9529）で受信の確認をお願いします。

（電話は平日午前10時から午後5時まで）

※口頭、電話による質問の受付は行いません。

(3) 回答方法

質問への回答は人材育成課ホームページ
https://www.pref.osaka.lg.jp/o110110/01jinzai_r8mirainomonodukuri.html）に掲示し、
 個別には回答しません。

7 審査の方法

(1) 審査方法

ア (2)の審査基準に基づき、外部委員で構成する選定委員会による審査を行い、最優秀提案者を決定します。ただし、最高点の者が複数者いる場合は、提案金額の安価な者を最優秀提案事業者とします。

イ 審査は、書類審査及びプレゼンテーション審査にて行います。プレゼンテーション審査は、5月中旬を予定しており、詳細の日時等は、応募者に事前に通知を行います。プレゼンテーション審査では、パワーポイント等の使用は可能です。大阪府がプロジェクター等の機材を使用して応募書類を投影します。

※発表内容には、提案事業者が特定できる内容、担当者名等の個人情報を含めないでください。

※発表用のデータについては、令和8年5月1日（金曜日）午後5時までに電子メール
jinzaiikusei-g03@sbox.pref.osaka.lg.jp）で提出してください。

ウ 最優秀提案者の評価点が、審査の結果、100点満点中60点未満の場合は採択しません。
 なお、審査内容に係る質問や異議は一切受け付けません。

エ 特別の理由がないかぎり、最優秀提案者を契約交渉の相手方に決定します。

(2) 審査基準

審査項目	審査内容	配点	
事業目的及び業務内容の理解度	事業の趣旨・目的及び業務内容に関する理解や知識が十分にあるか。	5点	
事業内容に関する提案について (別紙 仕様書 5(1)～(3) 参照)	(1) 小学校における体験型出前授業の実施	15点	
	◆ 冊子について、小学生が技能及び仕事について理解を深め、興味を持つような内容の提案がなされているか。 ◆ 体験素材について、冊子と連動し理解が深まる設計となっているか。 ◆ 技能検定、進学先の情報が適切に整理されているか。		
	◆ 体験型出前授業について、児童の興味・関心を高める工夫がなされているか。 ◆ 3時限の授業で無理なく実施できる構成になっているか。 ◆ 体験に係る人員配置や安全管理の体制が適切か。		
	(2) 中学校における講演型出前授業の実施	◆ 冊子について、中学生の生活や社会理解に合ったテーマか。 ◆ 職業理解につながるリアルな情報や技能・職種と各教科との関連等の提案があるか。 ◆ 技能検定、進学先の情報が適切に整理されているか。	15点
		◆ 講演型出前授業について、技能者の挑戦・キャリア形成が具体的に伝わる内容の提案がなされているか。 ◆ 将来像を広げるメッセージ性があるか。 ◆ 時間管理、質疑応答などの運営が適切か。	
		(3) ものづくり魅力発信推進企業の登録、研修・交流会の開催	10点

	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 30 者以上の幅広い企業・団体を開拓・確保するための方法が提案されているか。 ◆ 出前授業の意義を理解してもらう工夫や事業を広く周知するための方法の提案があるか。 ◆ 研修・交流会について、企画内容が具体的かつ効果的であり、企業・団体の積極的な参加を促すよう創意工夫をした提案がなされているか。 	20 点
事業計画の策定及び進行管理（別紙仕様書 5(4)参照）	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 事業全体の実施体制やスケジュールについて、具体的に提案されており、本事業を実施するにあたり十分か。 ◆ 事業を遂行する能力はあるか。（提案者の経営状況、財務状況） ◆ 提案者が有するノウハウ、類似事業の実績などについて、具体的に提案されており、本事業を実施するにあたり十分か。 	10 点
※府施策への協力	障がい者の雇用状況、府の労働施策（公正採用選考人権啓発推進員の選任、大阪企業人権協議会・おおさか人材雇用開発人権センターへの加入、大阪府障がい者サポートカンパニー又は大阪府障がい者サポートカンパニー優良企業への登録）への対応状況を確認する。	5 点
価格点	《価格点の算定式》 満点(10 点)×提案価格のうち最低価格/自社の提案価格 (上記計算式で算出した数値の小数点以下第 2 位を四捨五入する)	10 点
合 計		100 点

※「府施策への協力」の配点は下表のとおり。（上限点数は 5 点とする）

審査項目	審査内容	配点
障がい者雇用	障がい者の雇用 <実雇用率> 5.00%以上 4 点 4.17～4.99% 3 点 3.34～4.16% 2 点 2.51～3.33% 1 点 <法定雇用障がい者数超過数> 7人以上 4 点 5～7人未満 3 点 3～5人未満 2 点 1～3人未満 1 点 ※実雇用率と超過数の高い方の得点を採用する。 共同企業体の場合は構成員企業の中で最も低い企業の点を採用する。	4 点
公正採用選考人権啓発推進員の選任	公正採用選考人権啓発推進員の選任	1 点
大阪企業人権協議会への加入	大阪企業人権協議会への加入の有無	1 点
就職困難者の就労支援への協力	大阪府が実施する「就職困難者に対する就労支援事業」又は「企業に対する支援学校等生徒の雇用支援事業」の補助事業者〔一般社団法人おおさか人材雇用開発人権センター（C－STEP）〕への加入の有無	1 点
「大阪府障がい者サポートカンパニー」又は「大阪府障がい者サポートカンパニー優良企業」への登録	登録の有無	1 点
合 計		(5 点)

※公正採用選考人権啓発推進員の選任、大阪企業人権協議会への加入、就職困難者の就労支援への協力、大阪府障がい者サポートカンパニー（優良企業も含む）の登録について、共同企業体の場合は構成員全ての企業において選任等されていることを加点の要件とします。

(3) 審査結果

ア 契約交渉の相手方が決定した後、審査結果は採択に関わらず、応募いただいた全応募者に通知します。

イ 選定過程の透明性を確保する観点から、以下の項目を人材育成課ホームページ（https://www.pref.osaka.lg.jp/o110110/01jinzai_r8mirainomonodukuri.html）において公表します。

なお、採択されなかった提案者が1者であった場合は、当該提案者の提案金額及び得点は公表しません。

- ① 最優秀提案事業者及び契約交渉の相手方と評価点
* 品質点・価格点を配点した場合の価格点・提案金額
- ② 全提案事業者の名称 * 申込順
- ③ 全提案事業者の評価点 * 得点順 内容は①に同じ
- ④ 最優秀提案事業者の選定理由 * 講評ポイント
- ⑤ 選定委員会委員の氏名及び選任理由
- ⑥ その他（最優秀提案事業者と契約交渉の相手方が異なる場合は、その理由）

(4) 審査対象からの除外（失格事由）

次のいずれかに該当した場合は、提案審査の対象から除外するとともに、別途、入札に準じて入札参加停止等の措置を講じることとします。

ア 選定委員に対して、直接、間接を問わず、故意に接触を求めること。

イ 他の応募提案者と応募提案の内容又はその意思について相談を行うこと。

ウ 事業者選定終了までの間に、他の応募提案者に対して応募提案の内容を意図的に開示すること。

エ 応募提案書類に虚偽の記載を行うこと。

オ その他選定結果に影響を及ぼすおそれのある不正行為を行うこと。

8 契約手続きについて

(1) 契約交渉の相手方に選定された者と大阪府との間で協議を行い、契約を締結します。

(2) 採択された提案については、採択後に大阪府と詳細を協議することとします。

(3) 契約金額の支払いについては、精算払いとします。

(4) 契約に際して、暴力団排除措置規則第8条第1項に規定する誓約書（様式12）を提出いただきます。誓約書を提出しないときは、大阪府は契約を締結しません。

(5) 契約交渉の相手方が、契約交渉の相手方として決定した日から契約締結の日までの間において、暴力団排除措置規則第3条第1項に規定する入札参加除外者、同規則第9条第1項に規定する誓約書違反者又は同規則第3条第1項各号のいずれかに該当したと認められるときは、契約を締結しません。

- (6) 契約交渉の相手方が、契約交渉の相手方として決定した日から契約締結の日までの間において、次のア又はイのいずれかに該当したときは、契約を締結しないことがあります。
- ア 大阪府入札参加停止要綱に基づく入札参加停止の措置を受けている者又は同要綱別表各号に掲げる措置要件に該当する者
- イ 府を当事者の一方とする契約に関し、入札談合等を行ったことにより損害賠償の請求を受けた者
- (7) 契約相手方は、この契約の締結と同時に、契約金額の100分の5以上の額の契約保証金を納付しなければならない。
- ただし、契約保証金の納付は、次に掲げる担保の提供をもって代えることができる。
- ア 国債又は地方債。この場合において、提供される担保の価値は額面金額又は登録金額による。
- イ 政府の保証のある債券又は銀行、株式会社商工組合中央金庫、農林中央金庫若しくは全国を地区とする信用金庫連合会の発行する債券。この場合において、提供される担保の価値は額面金額又は登録金額（発行価格が額面金額又は登録金額と異なるときは、発行価格）の8割に相当する金額による。
- ウ 銀行又は大阪府が確実と認める金融機関（出資の受入れ、預り金及び金利等の取締りに関する法律（昭和29年法律第195号）第3条に規定する金融機関（銀行を除く。）をいう。以下この項において同じ。）が振り出し、又は支払保証をした小切手。この場合において、提供される担保の価値は小切手金額による。
- エ 銀行又は大阪府が確実と認める金融機関が引き受け、又は保証若しくは裏書をした手形。この場合において、提供される担保の価値は手形金額による。
- オ 銀行又は大阪府が確実と認める金融機関に対する定期預金債権。この場合において、提供される担保の価値は当該債権の証書に記載された債権金額による。
- カ 銀行又は大阪府が確実と認める金融機関の保証。この場合において、提供される担保の価値は保証書に記載された保証金額による。
- (8) (7)の規定にかかわらず、次のいずれかに該当するときは、契約保証金の全部又は一部を免除する。
- ア この契約による債務の不履行により生ずる損害をてん補する履行保証保険契約（保険金額は、契約金額の100分の5以上）を締結したとき。この場合においては、契約相手方は履行保証保険契約の締結後、直ちにその保険証券を大阪府に寄託しなければならない。
- イ 大阪府財務規則（昭和55年大阪府規則第48号）第68条第3号に該当する場合における契約相手方からの契約保証金免除申請書の提出（国、地方公共団体、独立行政法人通則法第二条第一項に規定する独立行政法人、国立大学法人法第二条第一項に規定する国立大学法人、地方独立行政法人法第二条第一項に規定する地方独立行政法人又は沖縄振興開発金融公庫と同種類及び同規模（当該契約金額の7割以上）の契約履行実績が過去2年間で2件以上ある場合で、かつ、不履行がないと認めるとき）。
- ウ 大阪府財務規則第68条第6号に該当する場合。

9 その他

応募提案にあたっては、大阪府公募型プロポーザル方式実施基準、公募型プロポーザル方式応募提案・見積心得、公募要領、仕様書等を熟読し遵守してください。

別記

特記仕様書

I 妨害又は不当要求に対する届出及び報告義務

- (1) 受注者は、契約の履行に当たって、大阪府公共工事等不当介入対応要領の定めるところにより、暴力団員及び暴力団密接関係者等から社会通念上不当な要求又は契約の適正な履行を妨げる行為（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、大阪府及び管轄警察署への報告を行わなければならない。
- (2) 報告は、不当介入報告書により、速やかに、大阪府及び管轄警察署の行政対象暴力対策担当者に行うものとする。ただし、急を要し、当該不当介入報告書を提出できないときは、口頭により報告することができる。この場合は、後日、不当介入報告書を各々提出するものとする。
- (3) 受注者は、下請負人等が暴力団員及び暴力団密接関係者等から不当介入を受けた場合は、速やかに報告を行うよう当該下請負人等に指導しなければならない。
- (4) 報告を怠った場合は、大阪府暴力団排除条例（平成 22 年大阪府条例第 58 号）に基づく公表又は入札参加停止を措置することがある。

II 個人情報取扱特記事項

（基本的事項）

- 第 1 受注者は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約による事務の実施に当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の取扱いを適正に行わなければならない。

（責任体制の整備）

- 第 2 受注者は、個人情報の安全管理について、内部における責任体制を構築し、その体制を維持しなければならない。

（作業責任者等の届出）

- 第 3 受注者は、個人情報の取扱いに係る作業責任者を定め、書面により発注者に報告しなければならない。
- 2 受注者は、作業責任者を変更した場合は、速やかに書面により発注者に報告しなければならない。
 - 3 作業責任者は、特記仕様書に定める事項を適切に実施するよう作業従事者を監督しなければならない。

（秘密の保持）

- 第 4 受注者は、この契約による事務に関して知り得た情報をみだりに他人に知らせてはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても、同様とする。

（教育の実施）

- 第 5 受注者は、個人情報の保護、情報セキュリティに対する意識の向上、特記仕様書における作業従事者が遵守すべき事項その他本委託業務の適切な履行に必要な教育及び研修を、作業従事者全員に対して実施しなければならない。

（再委託）

- 第 6 受注者は、発注者の承諾がある場合を除き、この契約による事務の全部又は一部を第三者に委託してはならない。
- 2 発注者は、前項の承諾をするに当たっては、少なくとも別に定める条件を付するものとする。

る。

(派遣労働者等の利用時の措置)

第7 受注者は、本委託業務を派遣労働者、契約社員その他の正社員以外の労働者に行わせる場合は、正社員以外の労働者に本契約に基づく一切の義務を遵守させなければならない。

2 受注者は、発注者に対して、正社員以外の労働者の全ての行為及びその結果について責任を負うものとする。

(個人情報の適正管理)

第8 受注者は、この契約による事務に関して知り得た個人情報の漏えい、滅失又は損傷の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。なお、講じるべき措置における留意すべき点は次のとおり。

- (1) 個人情報の利用者、作業場所及び保管場所の限定及びその状況の台帳等への記録
- (2) 施錠が可能な保管庫又は施錠若しくは入退室管理の可能な保管室での個人情報の保管
- (3) 個人情報を取扱う場所の特定及び当該場所における名札(氏名、会社名、所属名、役職等を記したもの)の着用
- (4) 定められた場所からの個人情報の持ち出しの禁止
- (5) 個人情報を電子データで持ち出す場合の、電子データの暗号化処理等の保護措置
- (6) 個人情報を移送する場合の、移送時の体制の明確化
- (7) 個人情報を電子データで保管する場合の、当該データが記録された媒体及びそのバックアップの保管状況に係る確認及び点検
- (8) 私用パソコン、私用外部記録媒体その他の私用物を持ち込んでの個人情報を扱う作業の禁止
- (9) 個人情報を利用する作業を行うパソコンへの業務に関係のないアプリケーションのインストールの禁止
- (10) その他、委託の内容に応じて、個人情報保護のための必要な措置
- (11) 上記項目の従事者への周知

(収集の制限)

第9 受注者は、この契約による事務を行うために個人情報を収集するときは、事務の目的を達成するために必要な範囲で、適法かつ公正な手段により行わなければならない。

(目的外利用・提供の禁止)

第10 受注者は、発注者の指示がある場合を除き、この契約による事務に関して知り得た個人情報を契約の目的以外の目的のために利用し、又は発注者の承諾なしに第三者に提供してはならない。

(複写、複製の禁止)

第11 受注者は、発注者の承諾がある場合を除き、この契約による事務を行うために発注者から引き渡された個人情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。

(資料等の返還等)

第12 受注者は、この契約による事務を処理するために、発注者から提供を受け、又は受注者自らが収集し、若しくは作成した「個人情報が記録された資料等」を、この契約完了後直ちに発注者に返還し、又は引き渡すものとする。ただし、発注者が別に指示したときは当該方法によるものとする。

(廃棄)

第13 受注者は、この契約に事務に関して知り得た個人情報について、保有する必要がなくなったときは、確実かつ速やかに廃棄し、又は消去しなければならない。

(調査及び報告)

第14 発注者は、受注者が契約による事務の執行に当たり取り扱っている個人情報の管理の状況について、定期的に及び必要に応じ随時に調査することができる。

2 受注者は、発注者の求めに応じて、前項の状況について、報告をしなければならない。

(事故発生時における報告)

第 15 受注者は、この契約に違反する事態が生じ、又は生じるおそれのあることを知ったときは、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従うものとする。

(契約の解除)

第 16 発注者は、受注者が本特記事項に定める義務を果たさない場合は、この契約による業務の全部又は一部を解除することができるものとする。

(損害賠償)

第 17 受注者は、本特記事項に定める義務に違反し、又は怠ったことにより発注者が損害を被った場合には、発注者にその損害を賠償しなければならない。

Ⅲ 委託役務業務に係る出向社員等の取扱特記事項

入札等により大阪府が発注する委託役務業務を受注した者が、当該業務を履行するに当たり、他者から出向社員等を受け入れる場合の取扱いについては、以下のとおりとする。

(取扱方針)

以下の 2 点については、原則禁止とする。

- (1) 基幹社員（業務責任者等）への出向社員等の受け入れ
- (2) 入札公告日から契約締結日まで、又は出向受入時において入札参加停止措置中の者からの出向社員等の受け入れ

ただし、上記(2)に関して、受注業者から、業務の安全かつ確実な引継ぎ、熟練労働者の確保、雇用の安定等のために最低限必要な出向社員等の受け入れについて、大阪府に事前に承認願いがあれば、承認基準の全てに該当する場合は承認する。

【承認基準】

- ① 出向社員等の受入期間は最長 1 年間とする。
- ② 受け入れる人員数は業務従事者全体の 50 パーセント未満とする。
- ③ 労働者派遣事業法、職業安定法等の労働法規に違反していないこと。
(労働者の供給事業などの違法な行為を行っていないこと。)
- ④ 受注業者及び出向元（派遣元）企業が親会社・子会社の関係にないこと。
- ⑤ 出向元（派遣元）企業が大阪府暴力団排除条例に基づく公共工事等からの暴力団の排除に係る措置に関する規則（令和 2 年大阪府規則第 61 号）第 3 条第 1 項に規定する入札参加除外者、同規則第 9 条第 1 項に規定する誓約書違反者又は同規則第 3 条第 1 項各号のいずれかに該当すると認められる者でないこと。

(用語の定義)

- (1) 「受注業者」とは、競争入札等により当該業務を受注した者をいう。
- (2) 「入札参加停止措置中の者」とは、次のア又はイに該当する者をいう。
 - ア 大阪府入札参加停止要綱に基づく入札参加停止の措置を受けている者又は同要綱別表に掲げる措置要件に該当する者
 - イ 大阪府暴力団排除条例に基づく公共工事等からの暴力団の排除に係る措置に関する規則（令和 2 年大阪府規則第 61 号）第 3 条第 1 項に規定する入札参加除外者、同規則第 9 条第 1 項に規定する誓約書違反者又は同規則第 3 条第 1 項各号のいずれかに該当すると認められる者
- (3) 「出向社員等」とは、出向元と出向先との間で締結された出向契約により、出向先企業の業務に従事する社員、又は派遣される社員のことをいう。

ただし、当該業務に係る入札公告日又は見積書依頼日の 1 年以上前かつ入札参加停止措置に該当する日以前から受注業者と出向又は派遣関係が確認できる場合はこの限りでない。
- (4) 「子会社」とは会社法（平成 17 年法律第 86 号）（以下「法」という。）第 2 条第 3 号に定めるものをいう。また、「親会社」とは法第 2 条第 4 号に定めるものをいう。